

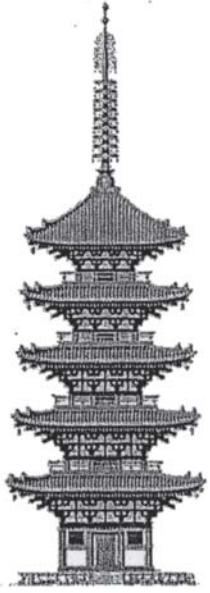
弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-Kouhei.org



優れた医者は道ばたの草も薬と
解宝の人は鉱石を宝と見る
知ると知らざると何誰か罪過ぞ

皆さん、こんにちは。最澄と空
海の時代についてお伝えしてきた
今年のかかわら版。最終回のテーマ
は空海の教えについてです。

★医王の目には皆薬なり

空海が厳しい修行の末に到達し
た境地を簡単に理解できるわけ
はありません。

しかし、空海が残した言葉から、
その境地を少しは感じることがで
きるかもしれません。

例えば、宗派を超えて親しまれ
ている般若心経を空海が解説した
著作、**八一八年の般若心経秘鍵(ひ
けん)**では次のように述べていま
す。

医王の目には途に触れて皆薬なり

解宝の人は鉱石を宝と見る

知ると知らざると何誰か罪過ぞ

優れた医者は道ばたの草も薬と

して活かす。宝石の専門家は、何
げない原石から宝石を見つける。
物事を理解できるかどうかは本人
次第。このような意味だと思いま
す。

迷うも自分、悟るも自分。自分
のこゝを見つめ直すのが仏法の教
えということでしょう。

★物の興廃は必ず人に由る

日本で初めての庶民の学校とし
て空海が開創した**綜芸種智院(し
ゆげいしゆちいん)**。空海は自ら
が理想とする学校の精神を書き記
しました。

それが**八二八年の「綜芸種智院
式並に序(しきならびにじよ)**」。
教育方針を述べた冒頭部分は次の
ようになっています。

物の興廃は必ず人に由る
人の昇沈は定めて道に在り

物事が盛んになるか廢れるかは、
それに関わる人次第。人が何かに
成功するか失敗するかは、その人
の心構え次第。人の生き方を追求
した空海らしい一文に感銘を受け
ます。



綜芸種智院といろは歌 (高野山真言宗草本財金剛峰寺 HP より)

★遠からざるは我が心ない

**八二七年、淳和天皇の異母兄で
ある伊予親王**逝去に際し、供養の
ために次のような願文を撰述しま
した。

遠くして遠からざるは
即ち我が心なり
絶えて絶えざるは
是れ我が性なり

遠いと思っけていても、意外に近
いのが自分の心。縁を絶ったと思
っていても、なかなか離れないの
が自分の本性。何かにつけて、こ

この原因は自分自身の心や本性。
そのようなことを教えてくださっ
ているようです。

★我が願いも尽きん

八三三年、晩年になって、空海
は初めて高野山で法要を行いました
た。人々の安寧を願う**万燈会(ま
んどうえ)**です。その折の願文で
次のように述べました。

虚空尽き衆生尽き
涅槃尽きなば
我が願いも尽きん

宇宙、人々、悟り。これらが全
てなくなってしまうえば、私の願い
もなくなる。しかし、これらは無
限、無尽に存在するので、私の願
いも永遠に尽きない。

空海は、人々が自らの仏性に気
づき、それぞれが安寧の境地に達
することを願っていました。その
ことが社会全体の平穏にもつな
がることから、空海は**高野山奥の院
御廟**に結跏趺坐したまま、永遠に
人々を導き続けています。

★自省と内省

空海の遺した言葉から、自らの
内面と向き合うこと**(自省と内省)**
の大切さを教えていただきました。
来年は、**最澄・空海以後の仏教**
をお伝えします。乞う、ご期待。

